借りているだけ●笹本碧

薄明は空のぬくもり息をして細胞たちのドアノックする
下り坂下から見れば上り坂インテグラルのかたちを描く
戻れない螺旋軌道の中にいて四十六億回目の初夏
赤血球思い出したらあんぱんを食べたくなるのは君も同じだね
吾の中を酸素一粒旅をする体育座りの姿勢のままに
クエン酸回路ほのかに唄うとき転がってゆくレモンスライス
わらってね笑っていてねこの風にとうもろこしの穂が出るころも
もう一度恋ができるかはわからない携帯電話に繋ぐ点滴
もっともっと動けばいいよ母譲りのミトコンドリアはせっかちである
呼吸するわたしはもちろん知っている宇宙飛行士（コスモノート）にはなれないことを
ひまわりを目指して伸びる向日葵よこの上何キロまで空ですか
見上げれば欅は鳳（おおとり）ぬばたまの黒南風の中に羽ばたいており
デニッシュのようなる壁に日は透けてるんるん回るカルビン回路
若葉たち光を合成しているのそれとも光を合成するの？
かしゃかしゃと組合されて水になるHとOの静かなパズル
遺伝子の螺旋階段降りゆけばかすかな記憶の鰓呼吸すら
「また来年」言えない君の傍らで矢車草は揺れているなり
坂道に吐き出したCは吸いこまれ今ごろ樫の根になってるね
本当は植物たちからこの星を借りているだけ　枝毛みつけた
緑という色の名前のない場所に雨は一粒ずつ落ちており